

## 文章読解が学習者の説得の論理に及ぼす影響について

丸山 範 高

高校生の発する「ことば」については、さまざまな立場から批評されているところの問題である。筆者は高校生の「ことば」の説得性に焦点を絞り、授業実践を通して考察を深めた。

説得力ある表現を構築するためには、他者の存在が必要不可欠である。そこで、他者の表現を読み合うことで得た知に基づき、自己の表現をリライトする授業を組織した。

授業では、説得の論理として、言語の配列等に関する形式的側面と、対読者意識に基づく内容的側面とが挙げられた。さらに、説得の論理を自己表現に生かすためには、その知識理解のみならず、運用力も必要とされることが、学習者の反応分析の結果わかった。

### I. 問題の所在

筆者は公的性格の強い授業場面から私的性格の強い雑談場面に至るまで様々な場面で高校生の「ことば」に関する種々の活動に接してきた。そして、彼らの発想の豊かさや意外性に驚かされた経験もある。しかしながら、高校生の発する「ことば」に線条性・論理性を見出そうすると難しい。つまり、表層的な伝え合いはできても、伝え合いを通じて思考を深め、ものの見方に更新を迫るような言語活動を実践しているとは言い難い。この問題意識が研究の動機である。例えば彼らを取り巻く社会問題を解決するためには、単発的ないわゆる「思いつき」と言われる類の「ことば」では不十分である。「ことば」を発する相手に応じた説得力が様々な形で求められる。

本研究は、線条性や論理性をともなった説得力ある「ことば」を発するために有効な学習指導の可能性について、学習者の反応を基に考察を深めて行くものである。

### II. 研究の目的と方法

本研究では、「ことば」の線条性・論理性が要求される授業場面を設定し、学習者の反応分析を通して学習者の「ことば」の力の可能性を明らかにする。

授業実践の概要は、以下の通りである。

対 象 広島大学附属高等学校 1年5組38名  
(男子24名 女子14名)

日 時 平成13年10月31日～  
平成13年11月21日のうち7時間  
(1時間50分×7)

科 目 国語I・現代語

単 元 自己を取り巻く世界を見つめ直す

### 単元設定の理由

高度情報化社会にあつて、学習者を取り巻く世界も複雑さを極めつつあるのが現状と言えよう。そのような状況に生きる学習者がバランスをとって生きていく際に要求されることは何であろうか。小林康夫(1998)は、「世界は、もはやひとつの表象、ひとつの力にすべての『悪』の責任を負わせてそれを言説で批判していればいいというほど簡単ではない。世界はますます複雑で、グローバル化しており、どの対立の現場ももはや単純な物語的な二元論(「善玉」,「悪玉」)には還元できないさまざまな力が絡み合っています。そして、それだからこそ、今後どのような場においても、そうした諸力を分析し明らかにする知の営みが必須になってくる。しかも、それだけではなく、そこでは知は、単なる分析だけではなく(そこにすら、恣意性は忍びこむのですから)、一歩進んで、それを総合しつつ新しい方向の、あるいは場の創造的な提示を考えてみるべきなのです。」<sup>(注1)</sup>と述べ、自己を取り巻く世界との関わり方について示唆を与えてくれる。そして、そのような営みを実現するための「ことば」の論理に注目してみたい。「ことば」の論理を通してこそ、閉ざされた自己を開放し、自らを取り巻く諸状況と論理的な対話を展開することが可能だからである。

しかし、学習者を取り巻く現状は、必ずしもそのような状況になっていない。例えば、学習者の日常会話において、自己の正当化を図るために、自他の間に境界線を引き、ともすれば、他者を含めた自己を取り巻く状況に責任転嫁して事足りれりとしてしまうことも見受けられる。また、マス・メディアを通じてなされる社会問題批評に関する言説にも、あえて対立構造を作り出すような境界線を設定すること

で問題解決の方向性を模索しようとするものもある。しかし、「ことば」の論理によって対象世界を分節化し境界線を引いてしまうことは、排他的関係を築き、感情の対立のみに終始してしまう可能性も否めないため、慎重な検討が必要であろう。

今回の単元では、自己を取り巻く言説を相対的な立場から受け止めることと、言説を発する際に陥りやすいバイアスを克服し、排他的関係から共存的関係を志向した説得の文章を組み立てることを目標としている。授業では、学習者にとって身近な社会問題をテーマにした文章を読むことから学習活動を展開していく。例えば、昨今の社会問題の一つとして、若者の逸脱行動がある。事件が起こるたびに、大人への批判、若者への批判、社会全体への批判がマス・メディアを通じて展開される。しかし、それらの批評は多種多様な方向性と内容を有し、かつ複雑な要因が絡み合っているものであるため、一方的に受け入れるのではなく、その説得のあり方に関する妥当性を十分に吟味する必要がある。ここでは、若者の逸脱行動について、異なる立場から批評した文章を読み比べる。大人を批判した批評文と若者を批判した批評文とを言説に内在する説得の論理に焦点を絞りながら読み比べ、その批評の妥当性を吟味するとともに、他者を説得するために有効な説得の論理について考えを深めていく。そして、自らが発する批評的言説を説得の妥当性という観点からモニタリングしながら組み立てることで、学習者自身も説得の論理を生かした批評文を書き上げることを目指す。

#### 学習目標

- ①異なる立場の批評文を読み比べ、文章に内在する説得の論理を明らかにする。
- ②説得の論理を有効に活用するために必要なことを知る。
- ③説得の論理を生かした批評文を書き上げる。

#### 学習活動の詳細

第1次 若者の逸脱行動について、いくつかの例を挙げ、批評文を書く。(0.5時間)

- ・次の二つの質問項目が記された用紙を配布。(第1次質問紙調査)

質問①最近の高校生の行動のうち、社会的に望ましくないとされているものとして何が思い浮かびますか。

質問②「最近の高校生の行動について」という題で意見文を書きなさい。(主張したいことが200字以内に収まるよう、表現をよく吟味すること。)

・質問①のみ記述する。

・質問①に対する学習者の反応を知る。

(以下は板書した事柄)

公共交通機関(電車・バス)利用の際のマナーの悪さ。地面に座り込む。無免許運転。携帯電話に関するマナー。飲酒・喫煙。薬物(シンナー・麻薬)乱用。ピアス。茶髪。乱れた服装。落書き。自殺。いじめ。カツアゲ。万引き。時間を守らない(遅刻)。言葉遣いが悪い。

・以下の事柄に注意しながら、質問②を記述する。(以下は、授業者が行った指示内容) 黒板に書かれたもの、あるいは質問①で挙げたものを参考に、自分の意見が主張しやすい行動例を絞り、それについて意見文を書きなさい。賛成、反対、どちらの立場の意見でもよい。

第2次 若者の逸脱行動を異なる立場から批評した文章を読み比べる。(3.5時間)

2-1 論の構成を理解しながら、説得の論理として有効なあり方を探す。

2-2 論の飛躍があれば、その原因を分析し、解決の方向性を模索する。

#### 第1時間目

- ・寺島実郎『時代の風』プリント(後掲の学習資料A)配布。
- ・読解後に、説得の仕方として望ましい点と望ましくない点とを挙げられるようにしておく。(指示)
- ・本文では何と何とが対比されているか考えながら音読を聞く。(指示・指名音読)
- ・音読を聞きながら語彙の理解に努める。(「団塊」「郷愁」「垂訓」等の語意の説明)
- ・本文では若者や子供の望ましくない現実と筆者の理想とが対比されている。(説明)
- ・若者の現状として何が問題だと言っているか。(発問 なおPは生徒の反応を示す。) P心が弱く、視野が狭い。傷つきやすく、落ち込みやすく、脆い。自分を制御する心が弱い。心の不安や深い戸惑いがある。
- ・若者問題の原因は何だと言うのか。(発問) P大人
- ・大人のどんな点が問題と言うのか。(発問) P子供たちに「他人様の迷惑にならなければ、好きなことをしていればいい」程度のメッセージしか発信できなかったところ。

- ・若者の問題を解決するにはどうしたらよいと言っているか。(発問)  
P 大人が時代や社会の課題を担い、真剣に立ち向かう。大人が公的貢献(ボランティア)に参画する。
- ・以上の解決策は望ましい解決策であることを確認しておく。(説明)
- ・望ましくない解決策として筆者は何を挙げているか。(発問)  
P 国権主義的対応
- ・「国権主義的対応」が権力による上からの押しつけであることを確認しておく。(説明)
- ・「国権主義的対応」が望ましくない解決策である理由をつかむ(←若者・子供の問題の原因が大人にあるにもかかわらず、大人の在り方に関係のない解決策であるから)。(説明)
- ・本文は問題提示、原因分析、解決策提示という構成になっている。(説明)

## 第2時間目

- ・本文では若者や子供の望ましくない現実と筆者の理想とが対比されており、筆者は大人が変わることを理想としている。これを前時の内容を想起し再度確認する。(説明)
- ・大人が変わると若者や子供はどのようなと言っているか。(発問)  
P 自分はどう生きればよいか考える。謙虚になる。視界が広がる。自らの行動を制御する教養を高める。
- ・若者・子供の望ましくない現実と理想とを左右するものとして大人の在り方が重要であることを再度確認しておく。(説明)
- ・次の二つの質問項目が記された用紙に意見記述。(第Ⅱ次質問紙調査)  
質問①寺島実郎氏の『時代の風』に対して一言……  
質問②寺島実郎氏の『時代の風』について、次の項目に該当するものを簡条書きにしなさい。  
●説得の仕方として望ましい点。  
●説得の仕方として望ましくない点、及び改善の方法
- ・千石保『日本の高校生 国際比較でみる』プリント(後掲の学習資料B)配布。
- ・読解後に、説得の仕方として望ましい点と望ましくない点とを挙げられるようにしておく。(指示)
- ・本文では何と何とが対比されているか考え

ながら音読を聞く。(指示・指名音読)

- ・音読を聞きながら語彙の理解に努める。(「相対的」「自然法」「形而上学」「ハイパーリアル」等の語意の説明)

## 第3時間目

- ・本文では若者・高校生の望ましくない現実と筆者の理想とが対比されていることをつかむ。(説明)
- ・若者・高校生の問題行動として「万引き・窃盗」がクローズアップされていることをつかむ。(説明)
- ・「万引き・窃盗」の原因は何だと言っているか。(発問)  
P 罪悪感が感じられないから。規範意識が低下しているから。規範や社会に対する関心が希薄になったから。他人の痛みに思いを致さなくなったから。
- ・「万引き・窃盗」とは別の「新しい犯罪・非行類型」に属する問題行動例として何が挙げられているか。(発問)  
P ブランド品志向がもたらす金策における非行と、冗談がいじめに転化した問題行動。
- ・これら「新しい犯罪・非行類型」が生まれた原因は何だと言っているか。(発問)  
P ちょっと違った自分を演出しようとするから。違いや差異が重要だから。
- ・若者や高校生の問題行動の包括的要因として筆者は何を指摘しているか。(発問)  
P 規範が崩壊していること。悪が透明化していること。否定性を消去し肯定性のみを受け入れること。悪に対する自己免疫性が低下していること。
- ・「悪の透明化」を換言したものが「否定性の消去と肯定性の受け入れ」になり、その結果が「自己免疫性の低下」「規範の崩壊」につながるという関係をつかむ。あわせて絶対的な規範意識が崩壊することで『『してはならないこと』を相対的に考える高校生が多くなってきた』という冒頭部分の現状につながることを理解する。(説明)
- ・筆者の理想を考える。(指示)
- ・若者・高校生が規範意識を回復するために何が必要だと言っているか。(発問)  
P 形而上学
- ・「形而上学」を身につけるためにはどうすればよいと述べているか。(発問)  
P 相手の立場とか、物事の背後にはなに

があるか、深い考察をする。

- ・次の二つの質問項目が記された用紙に意見記述。(第Ⅲ次質問紙調査)

質問①千石保氏の『日本の高校生』に対して一言……

質問②千石保氏の『日本の高校生』について、次の項目に該当するものを箇条書きにしろ。

- 説得の仕方として望ましい点。
- 説得の仕方として望ましくない点、及び改善の方法。

#### 第4時間目 (0.5時間)

- ・第Ⅱ・Ⅲ次質問紙調査で示された学習者の反応を一覧にしたプリント(後掲の学習資料C・D)配布。
- ・プリントに示された意見のうち、自分が文章を書くときに生かしていきたいと思うものはどれか。(発問)

#### 第3次 第1次で記述した批評文を説得の論理という観点から学習者同士で相互批評する。

(0.5時間)

- ・相互批評用紙を配布。
- ・次の三つの質問項目が記された相互批評用紙により、相互批評を行う。

(第Ⅳ次質問紙調査)

質問①何番の意見文を批評しますか。

質問②批評する際に、参考になった説得の方法は？(プリントに示されたものの中から選ぶ。なお、該当するものがなければ記入する必要はない。)

- 寺島実郎『時代の風』の方では、何番の方法が参考になりましたか？
  - 千石保『日本の高校生』の方では、何番の方法が参考になりましたか？
- 質問③君の選んだ、友人の意見について、
- 説得の仕方として望ましいと思う点は？
  - 説得の仕方として望ましくないと思う点と改善の方法は？

- ・(相互批評用紙配付直後に説明) 好悪による感情的批評を避けるためには客観的な分析が必要である。そして客観的な分析をするためにプリントに示された説得の方法が参考になる。(指示)

#### 第4次 説得の論理として有効なあり方を探究する。(1時間)

- ・説得の方法を具体的に学ぶという本時の学

習目標を知る。(説明)

- ・第Ⅱ・Ⅲ次質問紙調査で示された学習者の反応を一覧にしたプリントを読む。(指示)
- ・プリントにあるような説得の方法を使わないで文章を書くと、どんな問題点が出てくるか。(発問)

⇒補助発問 「例を挙げない文章」「理由の説明が不十分な文章」「解決策がない文章」「難しい言葉だらけの文章」……を読んだら、どう思うか。

- ・第Ⅰ・Ⅳ次質問紙調査で示された一部の学習者の反応(意見文とその批評)を記したプリント(後掲の学習資料E)配布。黙読。
- ・説得の方法の重要性を理解した上で、第Ⅰ・Ⅳ次質問紙調査で示された学習者の反応(意見文とその批評)を発表し合い、その妥当性を吟味する。(指示・発表)

自分の意見に付け加えることはないか。友達の書いた文章に対して質問はないか。説得の仕方を発表する際には、その内容をできる限り具体化できるよう心がける。

なお、望ましくない方法については、改善の方法も考える。

適宜、第Ⅱ・Ⅲ次質問紙調査で明らかになった説得の仕方と比較考察してみる。

意見文作成者の方からも批評者に向けて意見を述べる。

- ・さまざまな説得の方法が挙げられたが、これらの説得の方法には種類の違いがある。どのようなグループに分けられるだろうか。(発問)

⇒補助発問 「具体例を挙げる」「理由をきちんと説明する」「言いたいことを最初に書く」「解決策を示す」といった説得の方法と、「身近な解決策を挙げる」(寺島氏の文章に関する一覧表下段)という説得の方法とは、どんな違いがあるか。

- ・説得の方法には形式的な面と、内容的な面とがあることに気づく。(説明)

- ・形式的な面については法則(例を出す・言いたいことを最初に書くなど)にそのまま従えば実践できるが、内容的な面についてはそのままでは一般論(若者の問題行動というテーマ以外の時など)として実践できないので、どのようなことに注意したらよいか、もう少し詳しく考えていく。(説明)

- ・寺島氏の文章に関する一覧表 下13, 14, 20を参照する。どんなことが必要か。

(発問)

→現実感覚の重要性を理解。(説明)

- ・千石氏の文章に関する一覧表 下15, 16を参照する。→枠にはめすぎないこと、全体ではなく個を見ることの重要性を理解。

(説明)

- ・寺島氏の文章に関する一覧表 下7, 8を参照する。→原因を多面的に考えることの重要性を理解。(説明)

- ・最初に二つの文章を読んだとき、どちらが納得できたか。寺島氏の文章に関する一覧表 上28と、千石氏の文章に関する一覧表 下20を参照し理由も含めて答える。

→読み手の感情(反感)に配慮することの重要性を理解。(発問・説明)

- ・千石氏の文章に関する一覧表 下6, 18を参照し、整合性(矛盾のないこと)の重要性を理解。(説明)

- ・これらの感覚は、読み手にとっての違和感という表現でまとめられることを理解する。

(説明)

- ・読み手にとって違和感のない文章を作るにはどうしたらよいか。→対立・排他的関係ではなく共存的关系を志向した文章を作ることの重要性を理解する。(説明)

- ・説得の論理を有効に活用するためには、以上の形式的側面と、内容的側面とのバランスが必要であることを理解する。(説明)

- ・今回学習した説得の方法を生かしながら、第1次で記述した意見文をリライトすることという次時の学習課題を知っておく。

(説明)

#### 第5次 第1次意見文のリライト(1時間)

- ・次の二つの質問項目が記された用紙に意見文記述。第1次で記述した意見文も返却。

(第V次質問紙調査)

質問①自分の意見文を次の条件にしたがって200字以内でリライトしなさい。

条件1 前回よりも説得力が増すような文章にする。

条件2 友達がしてくれた批評を参考にする。

条件3 寺島氏の文章や千石氏の文章での説得の方法も参考にする。

質問②最初に書いた意見文に比べ、今回書いた意見文は、どんな点で説得

力が増したと思いますか。思いつ  
くまに箇条書きにしてください。

### Ⅲ. 結果とその分析

第I次質問紙調査で得られた反応と第V次質問紙調査で得られた反応とを、それぞれ同じ学習者の反応について相互比較し、その変化に注目しながら分析を進めた。

分析の観点として、表現スタイルの変化という点と表現内容の変化という点と二つの観点を設定した。

学習者は、読み手である他者に自己の意見を受け入れてもらえるよう、授業過程を通してさまざまに考えを深め、より説得力豊かな表現を創造しようと努めたといえる。以下、典型的な反応事例を挙げながら考察を加える。

#### Ⅲ-1 表現スタイルの変化

##### ①常体・断定型(第I次反応)から敬体・非断定型(第V次反応)へ

この型に属する反応からは、言いまわしを柔らかくすることで、読み手である他者の立場や感情に配慮していることがうかがえる。

[反応例]

(第I次反応) 今日、社会で叫ばれている高校生の問題行動は多種多様であり、どれも深刻だ。しかし最も早急に解決すべき問題は、飲酒・喫煙・薬物乱用といった自分自身を駄目にする行動ではないかと思う。他人には迷惑をかけていない分まだらう、などと言ってはいけない。自分を大切にできない人間が、何故他人を大切にできるのか。自分を大切にすることから始めなくは何も変わらないことは明白だ。

(第V次反応) 今日、社会で叫ばれている高校生の問題行動は多種多様で、どれも深刻です。その中でも特に早く解決すべき問題の一つとして、飲酒・喫煙・薬物乱用などの自分自身を害する行動を挙げたいと思います。他人には迷惑をかけていないからマシだ、などとは言えません。なぜなら、自分すら大切にできない人が本当の意味で他人を思いやることはできないと思うからです。逆に言うと、自分を大切にできれば他人も大切にできると言えます。

##### ②敬体・非断定型(第I次反応)から常体・断定型(第V次反応)へ

この型に属する反応をした学習者は、常体・断定型の文体により自己を強く打ち出し、読み手を印象付けようとする意図がうかがえる。①と②とは対照的な表現スタイルであるが、両者

とも説得力を増すために有効な表現であると考えられる。それは、①の型が効果的な場面も②の型が効果的な場面も、状況の違いに応じて生まれるからである。

〔反応例〕

(第Ⅰ次反応)ピアスをする事について、私は賛成です。なぜなら、ピアスというのは装飾品の一つであると考えられるからです。確かにピアスというのは、耳に穴をあけるので、プレスレットや指輪とは感じが違うかもしれません。でも、他人に迷惑をかけている訳でもないで別にいいと思います。ただ、中にはとにかくピアスをつけている少し度の過ぎた人もいます。その場合、周りを不快にさせる可能性もあるので、少し気配りも必要だと思います。

(第Ⅴ次反応)ピアスをする事について、私は賛成だ。なぜなら、ピアスというのは装飾品の一つであると考えられるからだ。確かにピアスは耳に穴をあけるので、プレスレットや指輪とは感じが違うかもしれない。でも、他人に迷惑をかけている訳でもないで、別にいいと思う。ただ、中には多くのピアスをつけている、少し度の過ぎた人もいる。人によってはそれを痛そうだと感じ、不快な気分になる可能性もあるので、少しは気配りも必要だと思う。

### ③断定型(第Ⅰ次反応)から提案型(第Ⅴ次反応)

断定を避け、提案型の文体に改めることで、読み手にさまざまな問題解決の方向性について考える余地を与えることになる。提案型の文体は、賛否両論とも生まれる可能性はあるが、自己の意見を読み手に浸透させるのに適した方法であると考えられる。

〔反応例〕(傍線は筆者による。)

(第Ⅰ次反応)私は、最近の高校生の言葉遣いには問題があると考えている。場所を考えずに大声で話したり、誰に対しても、いわゆる「タメ口」で話す。初対面の人や年上の人にタメ口で話すのは、けじめがつかないと思う。親しくなれるという利点があるのかもしれないが、高校生は社会へ出る直前の段階であり、けじめがつかない。そして何より、相手を敬い大切に思う気持ちを忘れてしまうのではないだろうか。

(第Ⅴ次反応)私は、多くの高校生の言葉遣いについて、改善する必要があると思う。初対面や年上の人にも平気でタメ口で話す姿は、もう見慣れた光景の一つである。親しくなれるという利点があるのかもしれないが、高校生は社会へ出る直前の段階でありけじめがつかないので使

う状況をよく考えた方がよい。まずは先生や近所の人など身近にいる人に対しての言葉遣いを見直し、相手を敬い大切に思う気持ちを再確認してはどうだろうか。

### ④抽象的な表現の削除(第Ⅴ次反応)

抽象的な表現を使うと、その概念が多義性をはらんでいるために、読み手に自己の意見をストレートに伝えることができなくなるおそれがある。読み手の理解や共感を得るためには抽象的な表現はできるだけ少なくした方が望ましい。

〔反応例〕(傍線は筆者による。)

(第Ⅰ次反応)なぜこれほどまでも十代の非行が増加しているのだろうか。それも、以前の犯罪の理由と違い、経済的に全く困らない中間所得者層の子供が8割以上だという調査結果もある。おそらく、こうした犯罪の根本原因は、母親が働きに出ていること、離婚率の上昇で片親の家庭が増えたこと、また物質主義的な人生観などにあると思える。ティーンエージャーの犯罪は、一概に彼らだけの問題とは言えそうにない。

(第Ⅴ次反応)なぜこれほどまでも十代の非行が増加しているのだろうか。それも、昔の犯罪の理由とは違い、経済的には全く困らない家庭の子供がその8割を占めているという調査結果もある。おそらく、こうした犯罪の根本原因は、母親が働きに出ていること、離婚率の上昇で片親の家庭が増えたこと、また次から次へと新しい物を欲しがるような価値観にあると思う。十代の犯罪は、一概に彼らだけの問題とは言えないのではないだろうか。

## Ⅲ-2 表現内容の変化

### ①実生活に即した解決策の提示(第Ⅴ次反応)

問題点を提示するだけの意見文に比べ、身近なレベルでの問題解決策をも含めた意見文にすることで、読み手の理解を得ることができる。

〔反応例〕(傍線は筆者による。)

(第Ⅰ次反応)私は、最近の高校生の言葉遣いには問題があると考えている。場所を考えずに大声で話したり、誰に対しても、いわゆる「タメ口」で話す。初対面の人や年上の人にタメ口で話すのは、けじめがつかないと思う。親しくなれるという利点があるのかもしれないが、高校生は社会へ出る直前の段階であり、けじめがつかない。そして何より、相手を敬い大切に思う気持ちを忘れてしまうのではないだろうか。

(第Ⅴ次反応)私は、多くの高校生の言葉遣いについて、改善する必要があると思う。初対面や

年上の人にも平気でタメ口で話す姿は、もう見慣れた光景の一つである。親しくなれるという利点があるのかもしれないが、高校生は社会へ出る直前の段階でありはじめがつかないで使う状況をよく考えた方がよい。まずは先生や近所の人など身近にいる人に対しての言葉遣いを見直し、相手を敬い大切に思う気持ちを再確認してはどうだろうか。

②問題の一般化（第Ⅰ次反応）から非一般化（第Ⅴ次反応）へ

「高校生は……」「若者は……」というように全体を一般化せず、例外をも認めた文章にすることで、読み手に与える違和感をできるだけ少なくしようと努めている。

〔反応例〕（傍線は筆者による。）

（第Ⅰ次反応）私は、最近の高校生の言葉遣いには問題があると考えている。場所を考えずに大声で話したり、誰に対しても、いわゆる「タメ口」で話す。初対面の人や年上の人にタメ口で話すのは、はじめがつかないと思う。親しくなれるという利点があるのかもしれないが、高校生は社会へ出る直前の段階であり、はじめがつかない。そして何より、相手を敬い大切に思う気持ちを忘れてしまうのではないだろうか。

（第Ⅴ次反応）私は、多くの高校生の言葉遣いについて、改善する必要があると思う。初対面や年上の人にも平気でタメ口で話す姿は、もう見慣れた光景の一つである。親しくなれるという利点があるのかもしれないが、高校生は社会へ出る直前の段階でありはじめがつかないで使う状況をよく考えた方がよい。まずは先生や近所の人など身近にいる人に対しての言葉遣いを見直し、相手を敬い大切に思う気持ちを再確認してはどうだろうか。

③原因・理由の提示（第Ⅴ次反応）

「なぜそう言えるのか」という原因・理由を示すことで、読み手にとって主張の因果関係がより明確になり、書き手の単なる思い込みによる意見文ではないことが印象付けられる。

〔反応例〕（傍線は筆者による。）

（第Ⅰ次反応）ピアスをするについて、私は賛成です。なぜなら、ピアスというのは装飾品の一つであると考えられるからです。確かにピアスというのは、耳に穴をあけるので、プレスレットや指輪とは感じが違うかもしれませんが。でも、他人に迷惑をかけている訳でもないで別にいいと思います。ただ、中にはとにかくピアスをつけている少し度の過ぎた人もいます。

その場合、周りを不快にさせる可能性もあるので、少し気配りも必要だと思います。

（第Ⅴ次反応）ピアスをするについて、私は賛成だ。なぜなら、ピアスというのは装飾品の一つであると考えられるからだ。確かにピアスは耳に穴をあけるので、プレスレットや指輪とは感じが違うかもしれない。でも、他人に迷惑をかけている訳でもないで、別にいいと思う。ただ、中には多くのピアスをつけている、少し度の過ぎた人もいる。人によってはそれを痛そうだと感じ、不快な気分になる可能性もあるので、少しは気配りも必要だと思う。

④書き手の感情的表現の抑制（第Ⅴ次反応）

できる限り主観性を廃した主張を組み立てるためには、幅広い視野に立った冷静な表現が求められる。

〔反応例〕（傍線は筆者による。）

（第Ⅰ次反応）僕はピアスについては賛成です。大人は親からもらった体なのに、穴をあけるとは何だというかもしれないけど、こっちはファッションとしてやっている。それに世界にはピアスをする事が当たり前という民族もあるし、そこは文化の違いだと思う。なんで日本の食文化の寿司は外国でうけてピアスは日本で受け入れられないのかと思う。今の国際社会、互いの文化を理解し合っていく事が大切だと思う。でも、その考えは個人の自由です。

（第Ⅴ次反応）僕はピアスについては賛成だ。大人は「親からもらった体に穴をあけるとは何だ。」と言う人もいるが、今の若者は僕も含めてファッションとしてつけている。世界にはピアスが受け入れられている国もあるし、そこは文化の違いだと思う。日本の食文化も世界に広まっているし、今や国際社会の世の中では互いの文化を理解し合う事が大切だと思う。「文化に国境線はない。」しかし、これをどう思うかどうか考えるかは個人の自由だと思う。

## IV. 考 察

学習資料C・Dより、学習者は説得の方法として効果的なあり方を多角的な視野に立ってとらえていることがわかる。そして、適切な取捨選択により、それらの方法が実際の文章表現に生かされることが理想ではあるが、第Ⅰ次反応と変わらず説得力に乏しい反応例も第Ⅴ次反応で見られた。しかしながら、学習資料C・Dに表れた結果やその各項目の検討により、文章表現意識レベルでの学習成果は得られたのではないかと考える。説得力に富んだ文章とは、

自分の思いをただ単に思いつくまま記述したのではない。さまざまなレベルで読み手である他者を意識し、表現事象を柔軟かつ多角的にとらえた文章を組み立てなければならない。そういう文章表現意識を持つことから説得力に富んだ表現は生み出される。

また、「Ⅲ. 結果とその分析」の項で示した典型事例のように変化の認められる反応もあった。第Ⅰ次反応に比べ第Ⅴ次反応では、望ましいと考えた説得の方法を積極的に組み入れようとする書き手のスタンスがうかがえる。

今回の一連の授業実践においては、物事を多角的な立場から筋道立てて柔軟に考え説得力を高めようと努めることで、文章表現意識という言語感覚に磨きをかけることをねらいとした。「ことば」によって世界は形を与えられ、人と人、人とのものとは関係付けられる。したがって、「ことば」の使い方の基盤となる言語感覚に適切さが欠如していたならば、世界のとらえ方や諸々の関係に支障をきたすことになる。したがって、言語感覚の適切な磨き方が必要になってくるのである。

授業実践にあたり組織した学習活動をまとめると次のようになる。

- 1 同じ社会現象を異なる立場から批評した複数の文章を共通の目的を持って読む活動。今回設定した目的とは、それぞれの文章に内在する説得の論理を読み取るというものである。
- 2 目的を持って文章を書く活動。今回設定した目的とは読み手を意識し、説得力ある文章を書くというものである。
- 3 さまざまな考え方をメタ認知する活動。
- 4 相互批評活動。

他者の表現を読み合うことで得た知を基に、自己の表現をリライトする。その一連の授業過程において種々の言語活動を組織することで、説得力ある表現に関する知識的側面のみならず、その実際の運用的側面への理解も促進される。

## V. 結 語

相手を意識した「ことば」の重要性については、古くて新しい国語教育上の課題である。

倉沢栄吉(1956)は、「『相手を意識し、相手を求める』作文」<sup>(注2)</sup>としてのコミュニケーション作文の重要性を指摘している。

コミュニケーションとしての作文を重視する立場から、「書くときに、相手を考えさせる」のである。(中略)単に「あったこと見たことをそのまま書く」のではなく、今から書く作文を何のために書き、それをだれに読んでもらうかを考える。(中略)だから、コミュニケーション

としての作文では、「書くときの言語意識」をだいにする。相手によくわかってもらうためには、正しい日本語でわかりやすく書かなければならない。自分の作文は、果たして相手によくわかるような文であるか、ことばづかいであるか、正しい表記をしているか、という反省がぜひ必要である。(中略)自分の表現に反省を加え、言語意識を旺盛にしなければならない。<sup>(注3)</sup>

これと類似した課題については、『高等学校学習指導要領解説国語編』(平成11年発行)でも指摘されている通りである。ここでは、社会的要請という立場からその重要性が指摘されているところである。

国際化、情報化等、変化の激しいこれからの社会では、一人一人が良好な人間関係づくりや健全な社会づくりに積極的にかかわろうとする意欲や態度が特に求められる。言語の教育の立場に立つ国語科としては、『伝え合う力』を高めることを通して、そのような意欲や態度を育てていこうとするものである。<sup>(注4)</sup>

学習者たちが相手意識に基づいた説得力ある「ことば」を発するためには、ただ単に読み手のことを考えた文章を書こうと意識するだけでは不十分である。「ことば」に内在する説得の論理をモニタリングすることが必要であると考えられる。学習方法が明確になることで学習目標は達成される。ここでは、「ことば」に内在する説得の論理を多角的に見つめることが学習目標を実現に導く学習方法となる。

授業実践を通じての学習者の反応結果より、「ことば」に内在する説得の論理には多様なレベルのものが含まれることがわかった。説得の論理には、形式的側面と、内容的側面とがあった。形式的側面については、ことばの並べ方などに関する語彙レベルでの説得力や文章構造レベルでの説得力が含まれた。一方、内容的側面については、具体的な現実感覚を持たせることや読み手の感情に配慮することの重要性が多く学習者により指摘された。これらさまざまな方向性を有する説得力をバランスよく高めていくための授業モデルの構築が今後の課題である。

## 【注】

(注1) 小林康夫「知のポリティクス 創造的批判とその責任」、小林康夫・船曳建夫『新・知の技法』東京大学出版会、1998年、P11

(注2) 倉沢栄吉「コミュニケーションとしての作文」、『児童心理』1956年1月。なお、引用は飛田多喜雄・野地潤家監修、大内善一編集・解説『国語教育基本論文集成第8巻／国語科表現教育論Ⅰ作文教育論(1)』、明治図書、1994年、P108による。

(注3) (注2)に同じ。P118

(注4) 文部省『高等学校学習指導要領解説 国語編』、東洋館出版社、平成11年12月、P9・P10



寺島英郎『時代の風』

「二歳の犯罪」が続く。多くの識者がこの問題を論じているので、蛇足の発言をする必要もなからうが、どうしても考えておかなければならない、と思つたことと言及しておきたい。

仕事を通じて、あるいは幾つかの大学での教壇に立つ経験を通じて、若者と触れ合つて気づくことがある。それは、あまりに心が弱く、視野の狭い若者が増えているということである。それ故に傷つきやすく、落ち込みやすく、脆いのである。

佐賀のバスジャックや愛知県の老女殺害のような犯罪に走つたり、ストーカー行為のあけくりに危害を加えたりする若者の心の動きを注視すると、自分を制御する心の弱さに驚かされる。また、犯罪に至らぬまでも、東京・渋谷にたむろする「ガングロ・厚底ヒール」系の少女たちや身近の若者たちにも共通することだが、自己主張の裏側には驚くほどの心の不安。つまり「自分はどうしていいのかわからない」という、深い戸惑いが存在することに気づく。

どんな時代でも青春期の特色として、若者は不安定である。その危つさの中から恋愛とか創造のエネルギーが生まれてきたともいえる。しかし、現代日本の若者の精神状況は、これまでのどの時代とも違い、世界のどこの国とも違つ。社会総体で子供を大人に育てていく過程を社会化というが、戦後日本は社会化に失敗した極端な例であつた。

改めて当たり前の事実を確認しておきたい。荒れる二歳の両親は、団塊の世代以降の戦後生まれ世代といつたことである。3年前の神戸事件の酒鬼薮原聖斗も現在は二歳で、両親はともに三歳。佐賀バスジャックの両親は、父七歳、母五歳。愛知県の老女殺害の父は七歳、母七歳である。つまり、戦後日本が育ててきた世代の子供たちが揃らているのである。

自戒と反省を込めて、自らの世代である団塊の世代と、それ以降の戦後生まれ世代に共通の傾向を抽出すれば、根深い「私生活主義」と「拜金主義」への埋没である。戦前の過剰な国家主義への反動もあつて、全体を語ることを避け、己の身辺だけを考える傾向を許容してきたのが、戦後日本であつた。それは全体に対して、個の価値を守り抜くという「個人主義」とも異なり、私生活をさえ守られればよいという次元での生活保守主義の蔓延であつた。

また、右肩上がりの経済環境の中で経済的価値を何物にも優先させる傾向が浸透してきた。そうした状況に埋没した世代が、子供たちに発信できたメッセージは、「他人様の迷惑にならないければ、好きなことをしていればいい」程度のものでしかなかった。古今東西、子供は大人の背中を見て育つ。大人の世代が、時代や社会の課題を担い、真剣に立ち向かつている姿を見つめている若者が、「自分はどう生きればよいか」を考えないはずがない。

悲しむべきは、事態の深刻さに動揺した大人が、国権主義的対応しか思いつかないことであ

る。つまり、少年法改正による「少年法対象年齢の引き下げ」などによる少年犯罪への厳罰主義の適応とか、教育課程における徳育教育の強化などが、議論の対象となりがちである。

はなはだしきは、「教育勅諭」への郷愁をベースに古い価値を押しつけ、規律訓練を図ることで若者の社会化を進めようとする者さえいる。「厳しく鍛え直せ」という意見は、一見もつともらしいが空虚である。垂訓をする大人社会自体をどう変えていくかを見せず、楫を飛ばすことになるからである。子供の視野を広げ、他人を傷つけたり支配することよりも、はるかに大切な価値があることを、大人が身をもって示すことが重要なのである。

日常の現場での一人一人の大人の方が問題なのだが、社会システムの改革について2点だけ触れておきたい。一つは「教養」教育について。大学での講義と対話を通じ、私が真剣に伝えたいと思うメッセージは、世界にはさまざま人がいて、それぞれの苦しみを背負いながら懸命に生きているという、自分がこの目で見てきた実感であり、歴史の潮流の中で我々がいかなる地点に立つており、何を課題としていかねばならないか、という問題意識である。

若者の反応は敏感である。歴史軸と空間軸の中で、自分はどこに立っているのかを考え始めた若者の視線は変化してくる。先人の苦闘や自分の置かれた状況を理解し、謙虚になるからである。江連のようなが、若者の視界を広げ、自分が何者かを考える機会を充実させること、それが自らの行動を制御する教養を高める教育の原点であると考ええる。

次に、若者の公共心を高めるプログラムについて。私も基本的には曾野綾子さんが提唱している「ボランティア活動など公的貢献への参画義務づけ」に賛成するものである。公的課題への取り組み体験を通じて、人間は「社会人」である自分を自覚するからである。ただし、幾つかの付言がある。一つは若者だけでなく、すべての大人が公的貢献に参画すべきだということであり、二つは、ある程度の強制はやむをえないが、柔らかな選択肢の中から多様な形で公的貢献ができるようにすべきだ、ということである。

(平成12(2000)年7月9日付毎日新聞の記事による。)



寺島繁郎氏の『時代の風』

●説得の仕方として望ましい点

- 1 実際の事件、身近な事件、数値や実体験を例として多く用いている点。  
(田中・福田・宮原・立山・野田・人見・山崎)
- 2 具体例を挙げることで、より現実味を持たせている点。(三原)
- 3 具体的な例を挙げ、自分の意見を述べている点。(東原)
- 4 実際の犯罪例、実体験などを挙げながら若者の問題点を指摘している点。(大西・野坂)
- 5 文章の最後まで同じことの否定をたくさん例を述べて説得している点。(藤原)
- 6 例を挙げて、どのように解決するのが良いかを書いている。(越智)
- 7 現代の若者を育てた大人の問題点が論理的に導き出されている点。(圓山)
- 8 歴史的背景を考慮して論じている点。(井岡)
- 9 改善するための方法を明確に具体的に述べている点。(藤本・野田)
- 10 現在の状況を批判するだけでなく、具体的な解決策への道を提案している点。  
(奥田・野坂)
- 11 読者が納得できるような若者の悪い点、解決策をきちんと述べている点。  
(渡辺)
- 12 ボランティアといった具体例を挙げている点。(平野)
- 13 なぜそういう理想が生まれたかを書いている点。(立山)
- 14 一つの意見に理由付けがなされていて分かりやすい点。(大山)
- 15 AだからBだみたいにな主張に理論付けをしている点。(陰野・福田)
- 16 若者の心が弱い理由がきちんと述べられている点。(松重)
- 17 根本となる問題点を文頭で明らかにしている点。(面田)
- 18 キーワードを繰り返している点。(宮原)
- 19 段落の構成がうまい点。(藤本)
- 20 社会の移り変わりを述べて、今の社会と対比させ説得している点。(藤原)
- 21 現実と理想との対比がはっきりしている点。(面田・人見・山崎)
- 22 問題、原因、解決策が順序良く書かれている点。(三原・山崎)
- 23 今日日本の状況、若者の現状、その親たちへの批判、解決策と、順を追って説得され  
ており、順序が分かりやすい点。(森脇)
- 24 「若者と触れ合って気」<sup>①</sup>と書いてあり、頭で考えているだけではないと読者に感  
させ、共感してもらおうとしている点。(渡辺)
- 25 「事件を起こす」若者の立場から考えている点。(杉田)
- 26 情緒不安定な子供を支えてあげるような説得がなされている点。(小谷)
- 27 大人が身をもつて示す点。(秋野)
- 28 大人がボランティア活動に積極的に取り組み、子供に「社会人」であると自覚させるこ  
と。(西村)

●説得の仕方として望ましくない点 及び改善の方法

- 1 抽象的な言葉が多く、しだいに何を言っているのかわからなくなる点。(東原・宮原)
- 2 「〇のはずがない」という表現があつたが筆者の個人的な思い込みの可能性がある点。  
(宮原)
- 3 もつと世論やデータを取り入れて中立の立場から述べた方がよい。筆者の一方的な思い  
を述べたような気がする点。(陰野・藤本)
- 4 古い価値を押しつける点。(秋野)
- 5 「戦後日本が育ててきた世代の子供たちが描られている」という表現から、若者までが  
不安定という偏ったイメージを受ける点。(圓山・山崎)
- 6 若者の心が弱かったり深い戸惑いがある理由がはつきり書かれていない点。  
(杉田・立山)
- 7 原因は大人にあるという一方的な意見になっている。若者にもある問題点、その解決  
策を述べた方がよい点。(山崎)
- 8 「大人たちが悪い」と最初から決め付け、他の可能性を全く検証していない点。若者た  
ちの欠点や良い点を検証し、大人たちのそれと見比べることもよくあると思う点。(面  
田・圓山)
- 9 机上の空論に過ぎないかもしれない。そこまで親たちに反感を持つならば、自分の親  
としての体験談でもふまえて書くべきだと思ふ点。(森脇)
- 10 「大人が変われば子供も変わる」ということを前提としているがそれについての理論的  
説明がない点。(奥田・福田)
- 11 仮に「大人が変われば子供も変わる」を正しいと仮定しても「17才」の問題行動を問  
題視していない大人は変わらなないという事を考慮に入れていない点。(奥田)
- 12 「大人」というものを一つの集団としてのみ考え、「大人」の中にも様々な主義や考え  
方を持ち教育しているということが明確でない点。(平野)
- 13 難しい理想が造りあげられていて実際に行動を起こすのが困難。(大西・越智)
- 14 もつと身近で本当にささいなこと(タバコのポイ捨てをやめるなど)から大人が変えて  
いくべきだという主張の方がよい点。(越智)
- 15 ボランティア活動への参画義務づけという全員ができるとは限らないものを解決策として  
挙げるのではなく、子供の教育をきちんとする義務が親にはあると書いた方がよかった。  
(大西)
- 16 なぜボランティアをしたら視野が広がるのかなどを「突っ込んで述べなさい」と  
思う点。(大山)
- 17 公的貢献(ボランティア)への参画から人間が「社会人」を自覚する理由が述べられて  
いない点。(松重)
- 18 最後のしめくくりが納得いかない点。(藤原)
- 19 筆者の言いたいことがたくさんあり、煩雑な感じを受けた。もつと読みやすくシンプ  
ルな構成が望ましい点。(人見)
- 20 何もかも遠くから見て、一般的な事柄しか述べていない点。(小谷)
- 21 展開に変化がなく単調な感じがする。読者を引きつけるような一文や主張をどこかに入  
れた方がよい点。(三原)

千石保氏の『日本の高校生』

●説得の仕方として望ましい点

- 1 具体例を出している点。  
(荒谷・大山・面田・久保田・河野・西村・野坂・宮田・関・立山・山崎)
- 2 わかりやすい多くの例を出して、高校生の分析をしている。(奥田・、松重・森脇)
- 3 現実問題を挙げ、身近な事として読め、共感できる点。(大西・福田・越智)
- 4 雑誌などの事実などの具体例をもとに自分の意見・考察を論理的に組み立てている点。  
(東原・藤本・人見)
- 5 具体的な例を用いることで、読者の問題意識を高めている点。(圓山)
- 6 言いたいことが最初に書いてある。(山崎)
- 7 主張が文章の初めと終わりにある点。(渡邊)
- 8 引用文が多い点(週刊誌・個人の言葉など)。(學頭)
- 9 「」を利用することで特定の言葉に注目できる点。(山崎)
- 10 比喩(悪が冗談という透明な膜に覆われている)など、をうまく利用している点。  
(宮田)
- 11 自分で言葉を作って、その型にはめて説明している点。(藤原)
- 12 同じこと(規範)などを繰り返し言葉を変えながら説明している点。(西村・藤原)
- 13 一つのテーマについて色々な視点から批判している点。(面田・立山)
- 14 具体的に説明してある点。(田中)
- 15 対比の関係を生かした文章になつていている点。(福田)
- 16 問題点と意見との関わりがよい。(宮原)
- 17 高校生の姿態とその原因だけでなく解決方法を具体的に書いている点。(荻野・平野)
- 18 (若者が)罪の意識がない点、深い考察ができない点なく、なぜそんな心理状態になるか分からないが、読んで納得させられた。(陰野)

●説得の仕方として望ましくない点、及び改善の方法

- 1 抽象的で難解な言葉が多い。(大西・平野・立山)
- 2 ボードリヤールや上野千鶴子の言葉。(小谷)
- 3 自分の作った言葉の型に犯罪の例などをはめすぎて納得いかない部分もあった。  
(藤原)
- 4 推測は数値など客観的データを挙げた方がよい。(立山)
- 5 昔の事情との比較考察がほしい。(立山)
- 6 例と主張との関わりがわかりにくい。(天山)
- 7 極端な例が多く、押しつけたような感じがする。(松重)
- 8 具体例が多い割には意見が少ない。(人見)
- 9 文同士をつなぎをもつとめらかにした方が読みやすい。(三原)
- 10 大元の原因がいろいろ加減な感じがする点。(久保田)
- 11 問題行動の原因と考えられる社会構造に言及されていない。(平野)
- 12 具体的解決案と作者の明確な意見が見られない。(奥田)
- 13 高校生の問題行動を書き並べているだけで、それに対する具体的な解決策が提示されていない。(野坂・森脇)
- 14 解決策が今一つはつきりしない。その年代の声が必死だ。(陰野)
- 15 「高校生は」とひとまとめにしすぎている。一般論にしすぎべきではない。(學頭)
- 16 個人の事情も考えず、「今の若者は…」という先入観が入ったような視点で見ている点。(関)
- 17 高校生は差異を求めているだけではない。集団で他の人たちと違つたことをすることもあつたから、「二つの集団として他の集団との差異を求めるところもある」という表現も必要だ。(越智)
- 18 偏差値日本一とあるが、この問題で偏差値などは関係ないと思う。この言葉を入れる必要はないのか。(圓山)
- 19 全体を通して客観的な意見であり、ネジのはずれた高校生には大人の勝手な意見としてとらえられてしまうかもしれない。それでは説得にならない。(藤本)
- 20 「ネジが外れている」とか思えない」は少し言い過ぎである。いくらかは良心があるはずだ。(西村)
- 21 「冗談」がいじめに発展というのは違和感がある。(野田)
- 22 「してはならないこと」をなぜ高校生が「その人の自由」だと考えているのか書いていない点。(杉田)



質問⑤ 「最近の高校生が行動でついでに」という題で意見文を書きなさい。  
 (注) 1. 主題として200字以内で収まるよう、論点をよく整理する(10分)

5-5

10	あるので、少し気配りも必要だと思います。
9	トヤ箱輪とは感じが違いますが、中には人にいかに
8	も、他人に迷惑をかけることには、
7	別にいいと思います。ただ、
6	ピアスをつけている人の過半数は
5	いうのは耳に穴をあけるので、
4	あると考えられるから、
3	なせならピアスというのは
2	ピアスすることについて、私は賛成で
1	です。

20×10(200字) 広島大学附属中・高等学校副科 ( 年 月 日)

1 回答の本文を記します。  
 5-5  
 1 高校生は、ピアスや髪型、ファッション、化粧など、個性を表現する権利がある。ピアスや髪型は、自己表現の手段として、社会の中で受け入れられるべきである。また、ピアスや髪型は、ファッションの一部として、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。また、ピアスや髪型は、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。

2 高校生は、ピアスや髪型、ファッション、化粧など、個性を表現する権利がある。ピアスや髪型は、自己表現の手段として、社会の中で受け入れられるべきである。また、ピアスや髪型は、ファッションの一部として、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。また、ピアスや髪型は、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。

3 高校生は、ピアスや髪型、ファッション、化粧など、個性を表現する権利がある。ピアスや髪型は、自己表現の手段として、社会の中で受け入れられるべきである。また、ピアスや髪型は、ファッションの一部として、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。また、ピアスや髪型は、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。

4 高校生は、ピアスや髪型、ファッション、化粧など、個性を表現する権利がある。ピアスや髪型は、自己表現の手段として、社会の中で受け入れられるべきである。また、ピアスや髪型は、ファッションの一部として、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。また、ピアスや髪型は、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。

5 高校生は、ピアスや髪型、ファッション、化粧など、個性を表現する権利がある。ピアスや髪型は、自己表現の手段として、社会の中で受け入れられるべきである。また、ピアスや髪型は、ファッションの一部として、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。また、ピアスや髪型は、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。

質問⑥ 「最近の高校生が行動でついでに」という題で意見文を書きなさい。  
 (注) 1. 主題として200字以内で収まるよう、論点をよく整理する(10分)

5-6

10	たりの問題(は)は、
9	親の家庭に増えること、
8	親の家庭に増えること、
7	親の家庭に増えること、
6	親の家庭に増えること、
5	親の家庭に増えること、
4	親の家庭に増えること、
3	親の家庭に増えること、
2	親の家庭に増えること、
1	親の家庭に増えること、

20×10(200字) 広島大学附属中・高等学校副科 ( 年 月 日)

1 回答の本文を記します。  
 5-6  
 1 高校生は、ピアスや髪型、ファッション、化粧など、個性を表現する権利がある。ピアスや髪型は、自己表現の手段として、社会の中で受け入れられるべきである。また、ピアスや髪型は、ファッションの一部として、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。また、ピアスや髪型は、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。

2 高校生は、ピアスや髪型、ファッション、化粧など、個性を表現する権利がある。ピアスや髪型は、自己表現の手段として、社会の中で受け入れられるべきである。また、ピアスや髪型は、ファッションの一部として、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。また、ピアスや髪型は、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。

3 高校生は、ピアスや髪型、ファッション、化粧など、個性を表現する権利がある。ピアスや髪型は、自己表現の手段として、社会の中で受け入れられるべきである。また、ピアスや髪型は、ファッションの一部として、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。また、ピアスや髪型は、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。

4 高校生は、ピアスや髪型、ファッション、化粧など、個性を表現する権利がある。ピアスや髪型は、自己表現の手段として、社会の中で受け入れられるべきである。また、ピアスや髪型は、ファッションの一部として、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。また、ピアスや髪型は、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。

5 高校生は、ピアスや髪型、ファッション、化粧など、個性を表現する権利がある。ピアスや髪型は、自己表現の手段として、社会の中で受け入れられるべきである。また、ピアスや髪型は、ファッションの一部として、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。また、ピアスや髪型は、個人の自由を尊重するべきである。したがって、ピアスや髪型は、高校生にとって重要な権利である。

質問②  
「最近の高校生の行動について」という題で意見文を書きなさい。  
① (主語したぐいで) 200字以内で収まるよう、表現をよく  
時序をとりよ)

5-9

10	に	過	ぎ	に	近	距離	内	に	たり	す	る	と	不	快	な	も	の	で	あ	る	。	そ	れ	を	れ	が
5	に	過	ぎ	に	近	距離	内	に	たり	す	る	と	不	快	な	も	の	で	あ	る	。	そ	れ	を	れ	が
5	に	過	ぎ	に	近	距離	内	に	たり	す	る	と	不	快	な	も	の	で	あ	る	。	そ	れ	を	れ	が
5	に	過	ぎ	に	近	距離	内	に	たり	す	る	と	不	快	な	も	の	で	あ	る	。	そ	れ	を	れ	が
5	に	過	ぎ	に	近	距離	内	に	たり	す	る	と	不	快	な	も	の	で	あ	る	。	そ	れ	を	れ	が

20×10(200字) 広島大学附属中・高等学校園部科 ( 年 月 日)

- 1 足音の響きを批評しなさい。
- 2 足音の響きを批評しなさい。
- 3 足音の響きを批評しなさい。
- 4 足音の響きを批評しなさい。
- 5 足音の響きを批評しなさい。
- 6 足音の響きを批評しなさい。
- 7 足音の響きを批評しなさい。
- 8 足音の響きを批評しなさい。
- 9 足音の響きを批評しなさい。
- 10 足音の響きを批評しなさい。

高校1年 現代国語 相対批評問題

質問②  
「最近の高校生の行動について」という題で意見文を書きなさい。  
① (主語したぐいで) 200字以内で収まるよう、表現をよく  
時序をとりよ)

5-11

10	か	ら	う	で	あ	る																				
5	見	の	方	が	固	定	的	で	上	か	ら	押	さ	え	る	意										
5	見	の	方	が	固	定	的	で	上	か	ら	押	さ	え	る	意										
5	見	の	方	が	固	定	的	で	上	か	ら	押	さ	え	る	意										
5	見	の	方	が	固	定	的	で	上	か	ら	押	さ	え	る	意										

20×10(200字) 広島大学附属中・高等学校園部科 ( 年 月 日)

- 1 足音の響きを批評しなさい。
- 2 足音の響きを批評しなさい。
- 3 足音の響きを批評しなさい。
- 4 足音の響きを批評しなさい。
- 5 足音の響きを批評しなさい。
- 6 足音の響きを批評しなさい。
- 7 足音の響きを批評しなさい。
- 8 足音の響きを批評しなさい。
- 9 足音の響きを批評しなさい。
- 10 足音の響きを批評しなさい。

高校1年 現代国語 相対批評問題

